いたちかわらばん

通刊 77 号　鼬川・独川 / 川原番・瓦版　'17 秋号

【版画　宗森英夫】　「極楽広場（荒井沢）（いたちかわらばん通刊39号の復刻版）」

「 いたち川沿いのハンゲショウの群落」

６月２８日(水)、ハンゲショウ観察ウオーキングを開催しました。ハンゲショウの群落はいたち川稲荷森の水辺散策路沿いに繁茂しています。

ハンゲショウはドクダミ科で、半夏生あるいは半化粧という漢字で書かれ、暦の二十四節気の１つの夏至のあと１１日くらいの期間を半夏と言い、この時期だけ、葉の一部が白くなる特性の不思議な植物で、葉の半分が真っ白になることから半化粧の漢字で表記されたと言う説があります。

関西地方では、その時期にタコを食べる風習があります。その由来は田植えが終わって、稲の根がタコの足のように四方八方に根付いて欲しい願いからきたようです。

是非、その時期にはいたち川稲荷森の水辺のハンゲショウを見に行ってください。

＊暦の二十四節気とは、１年間の太陽暦の基になった太陽の黄道上を 24 等分して季節を表す名称で、冬至、春分、夏至、秋分…等で、半夏生は生活の中から民俗行事・年中行事が古くから記されるようになり自然発生的に生まれた「雑節」の１つです。　（うめおきな）

読者からのたより

○ハンゲショウ観察会に参加して

私は俳句の会に入って、夏の季語の中に「ハンゲショウ」があり、どんな草花か知りませんでした。“いたちかわらばん 75 号”で「ハンゲショウ観察のウオーキング」の募集を知り応募しました。

当日は小雨の中に参加者 20 名以上の方が栄区役所に集合して、説明を受けた後いたち川沿いを談笑しながら歩いて、１時間足らずで目的地の「稲荷森の水辺広場」に到達しました。散策路脇の水辺には、100m位に繁茂した「ハンゲショウ」は見事に満開に見えました。よく見ると、花は 10ｃm位の白い穂状でその下の 2 枚の葉だけが純白に変色して素晴らしい景色でした。

説明では、この時期を過ぎると白い部分の葉は次第に緑色に戻ることを聞き神秘な草花であることに驚きました。今後も観察会に参加していきたいと思っています。

（ウオーキング参加者）

（キブシ）

私と植物

雑草とは？ こういう質問をされてすぐこたえられたら、植物に関心がある方かなと思います。

私達夫婦は、花、木、草としかわけられない位植物とは無縁に生きてきました。

二十年前、ボランティア活動に誘われなかったらそのままだったかもしれません。

市民の森や水辺の活動などで勉強会に行き何と草にも名前があり、花が咲き、種がつき鳥の餌になったりで、いらない草はないということを学びました。

「雑草という名の草はありません」、昭和天皇のお言葉だそうです。

私達の植えた木や草の周りに植えてもいない草、一寸じやまな草を雑草というのですね。でもその草が野原や山に生えていたら、野草だそうです。なるほどネ．．．

荒井沢市民の森には横浜、鎌倉にしかない珍しい植物がたくさんあります。

タコノアシ、カントウアオイ、トラノオ、ジャケツイバラ、県花として指定されているヤマユリ等々です。

草刈をやる時も、うっかりして雑草の中にあるので刈ってはいけない時期に刈ってしまいそうになり危なく絶滅しそうになります。刈ってしまってからでは遅いのですけど、反省しながら勉強会を開き何年後かに出てくるのを見守るのです。

ですから、草、花、木とか言わない位勉強をしています。そして一寸人生の幅が広くなった気がします。

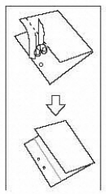
木の実が赤いのと黒いのはどちらがおいしいのでしょうか？木の実は子孫を残す為に実をつけるのです。そして鳥に食べてもらいたいのでおいしそうに赤い実をつけて、食べてもらうのです。味としては黒い実の方がおいしいそうです。

そんな事を話ながらのいたち川散歩は楽しいものです。世の中にはいらないものは無いのですね。

草本　和子

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



☆初春のウオーキング募集☆
“いたち川水源”の探索

日　時：平成 30 年 2 月 20 日（ 火 ）
上郷バス停 10:00(集合)～13:00(解散予定)

夏場には草木が生い茂り散策が出来ない、いたち川本川の源流部を確認してみましょう。その途中の「いたち川の仙人」と言われた(故)守田守氏の住宅跡地を左に見ながら源流部の水が流れ出る隧道(ずいどう)を探索し、珍しい植物等を観察したいと思っています。

上郷(バス停)→源示橋→みなもと一の橋･二の橋･三の橋→源流部隧道→崖より滴る湧き水を確認→上郷･森の家(休憩)→上郷(バス停)解散

＊雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。

集合場所：上郷バス停
参 加 費：100 円（保険料等）
持 ち 物：飲み物、雨具
募集人数：20 名（先着順）
募集要領：参加希望者は、葉書、メール、FAX で住所・氏名・性別・電話番号を明記の上、平成 30 年 1 月 31 日（水）までに下記に応募して下さい。（当日消印有効）
応 募 先：〒247 - 0005　栄区桂町 303 - 19
（電話）894 - 8161　（FAX）894 - 9127
（アドレス）sa-kikaku@city.yokohama.jp
栄区役所区政推進課企画調整係担当

※内容については、和久井（いたち川 OTASUKE 隊、080 - 3498 - 0552)まで

発行年月 2017 年 11 月
通刊 77 号

発行：独川OTASUKE隊　（いたちがわおたすけたい）
OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係　〒247- 0005　横浜市栄区桂町 303 -19
TEL 045 - 894 - 8161　FAX 045 - 894 - 9127
栄土木事務所下水道・公園係　〒247- 0007　横浜市栄区小菅ケ谷1-6-1
TEL 045 - 895 - 14 11　FAX 045 - 895 - 1421
（お便り・お問い合わせは こちらまで）

※いたちかわらばんは、４か月に一度、年３回発行しています。

初版「いたち川情報マップ」の紹介　第６弾!!

平成8年(今から 21 年前)に初版
「いたち川情報マップ」発行！
いたちかわらばん 71 号から順次紹介
しています

◆帰化植物や外来生物の話

川辺は環境の変化が大きいため、外来の動植物が侵入するチャンスも大きいようです。また都市化の進行で、澄んだ水に変わりさまざまな要素を含んだ水や土が流れ込み、地域の川辺本来の動植物を追い出して、外来の植物や生物が増える場になりがちです。

特に横浜は国際貿易港であることが大きな要因と考えられます。

川辺に広がるキクイモやセイタカアワダチソウ、クレソン（オランダガラシ）も帰化植物です。一面に花が咲くと印象的ですが、自然としてはバランスに欠けるものです。

生物では、人の手で持ち込まれたコイやアヒル（現在では見られない）ブラックバスのようなものもいます。今や全国に拡がるアメリカザリガニも大正時代に食用カエルの餌として、日本で初めて大船の養魚池に持ち込まれたものです。

本来の生き物を取り戻すためには、微妙なバランスと、基礎となる水や土の性質まで考える必要があります。

◆いたち川の川辺で見られる外来植物

通刊 48 号で 14 種類の外来植物を紹介しています。クレソン、ハナダイコン、ヒメオドリコソウ、シロツメクサ、ヒメツルソバ、コバンソウ、コセンダングサ、イガオナモミ、ジュズダマ、ワルナスビ、アレチウリ、セイタカアワダチソウ、オオブタクサなどですが、現在その他に繁殖した外来種を調べてみると、ナカミヒナゲシ、オオキンケイギク、トキワツユクサ、オオフサモ、ムラサキカタバミ、メマツヨイグサ、ヘラオオバコ、ムギ類などが確認されていますがその他にも多くの外来植物が在来植物を駆逐して生態系を破壊する危険性があります。

外来種の中でも環境省が指定する特定外来生物（植物）はナカミヒナゲシ、オオキンケイギク、アレチウリ、オオフサモをいたち川で確認することが出来ます。これらの植物は、周辺の在来植物の育成を強く阻害する成分（アレロパシー）を出して個体種だけの世界を構築する危険植物です。その植物を駆除するには、根ごと引き抜きビニール袋に入れ、ゴミとして処理することが良いそうです。

ヒナゲシ（ナカミヒナゲシ）は春先に道端などに咲いている薄ピンク色の花の草です。オオキンケイギクは尾月橋のたもとに咲いている黄色の綺麗な花で花壇などにも多く植えられています。アレチウリは水気の多い川辺に生え本郷中学校沿いの川辺にススキ等を覆い被るように繁茂しています。オオフサモは天神橋下流の右岸で水面を覆うように生えています。オオフサモに似ていますが、フサモはいたち川固有の水草で水中に繁茂し水の自浄作用を促す植物で間違わないようにしましょう。

次号では、裏面のいたち川情報を上流部から史跡を含め紹介いたします。　（水・人・子）

◆海までのつながり

いたち川は柏尾川に流れ込み、さらに境川に合流して江ノ島のあたりで海に流れ込んでいます。

図でわかるとおり横浜市内の川のうち相模湾に流れ込む川は境川水系だけです（その他の川は東京湾に流れ込みます）。

川の自然は海につながっていることも特徴です。アユなど川と海を行き来する魚をいたち川に呼び込むには、海との間に大きな「せき」など段差がないことが必要です。

いたち川と、ひと山越えた金沢区を流れる侍従川とは、ともに円海山周辺から流れ出していますが、いたち川にしかいないエビもいます。東京湾に流れ込む川と相模湾に流れ込む川とでは生物相が異なるようです。

地域学習

西本郷中学校2年生

私たち西本郷中学校の2年生は、今年6月より総合的な時間を使って栄区についての学習を進めてきました。自分たちが住んでいる栄区についてのウソ・ホントクイズをすると、意外に栄区について知らないことがわかりました。

この学習を始めるにあたり、まずは栄区のシンボル的「いたち川」について理解を深めようと「いたち川ＯＴＡＳＵＫＥ隊」の和久井さんにお話を伺いました。

「いたち川は世界的に有名な川」「海外から、いたち川を視察に多くの外国の方がいらっしゃるのです」という和久井さんの言葉に生徒たちはびっくり。いたち川といえば、私たち西本郷中学校の生徒にとっては、部活動でのランニングコース。そんな身近な川が世界的に有名な川と知ってみなびっくり。

その後は、各班がテーマを決め栄区についての調べ学習をはじめました。

各班、図書館の資料やインターネットで検索した資料をもとに調査をすすめ9月13日（月）には、午後の3時間を使ってフィールドワークを行いました。いたち川をテーマにした班では、1班はいたち川の水質に注目し自分たちで作った実験器具を使い、川の流れ、透視度や川の汚れについて調査しました。今回のような水質検査は、全国で一斉に行われることもあるようなので、身近ないたち川の水質に関心をもつとともに、いたち川について全国に、世界に、中学生から発信していきたい！という意欲もでたようです。もう1班はいたち川にかかる橋の今昔に注目しました。昨年、「いたち川ＯＴＡＳＵＫＥ隊」宗森さんから寄贈していただいた「いたち川百景」に描かれた風景と現在の橋を比較する調査を行いました。いたち川にかかる橋が100個もあるので、その中から、学校に近い新橋、花の木橋、海里橋などに限定し、普段見慣れている風景を改めて調査するという目線で観察をしました。橋のまわりの風景だけではなく橋を通る人も、どんな人が何人ぐらい通るのか調査しました。

今回の成果はフィールドワーク後に行われたクラス、学年発表会で披露し、『栄区ガイドブック西本郷中版』として本校の※楠笑祭（くすくすさい）に展示され、冊子として発行しました。

自分たちの住んでいる栄区のシンボル的存在のいたち川について、よりよく知り、全国や世界に発信したいと思えるような有意義な活動となりました。

（教諭　出村　綾乃）

※文化祭と合唱コンクールが一つになった行事

いたち川 橋梁名
いたち川百景